

# メリーゴーランド

大熊かつじ

まーちゃんはメリーゴーランドを眺めていました。  
とても大きく端の方はここからは見えません。  
中には階段も付いていて何層にも別れているように見えます。

乗っている人はとても楽しそうです。  
大笑いしている人がいます。  
手を叩いて喜んでいる人がいます。  
大泣きしている人もいます。  
はしゃいでる人もいます。  
怒っている人もいます。  
苦しんでいる人もいます。  
ニコニコしている人もいます。  
辛い顔をしている人もいます。  
憎しみ合ってる人もいます。  
抱き合ってキスしてる人もいます。

時々誰かが降りて来て、誰かが乗っています。  
降りてくる人はほとんどが年老いた人ですが、そうでない人もいます。  
降りた人は係の人に案内され、そのまま何処かに行ってしまいます。

若い人がふたり、取っ組み合って転がってきました。  
自分たちがメリーゴーランドから転げ落ちたのを知るとケンカを止め、今居たところを呆然と眺めていました。  
やがて係の人が現れ、ふたりを案内していきました。  
一方の人はとても未練があるようで何とか戻れないか？と係の人に何度もお願いしていましたが、係の人は首を横に振るばかりでそのまま案内されていきました。

乗り込めるのは子供だけです。  
子供は引き寄せられるように何所からともなく此処へ現れます。

メリーゴーランドは決して止まりません。  
ずっと動いているので上手く乗れずに弾き返される子もいます。

さっきからワクワクして目を輝かせながら今にも飛び乗ろうとしている子がいます。  
タイミングを見計らって飛び込むと数人が手伝って抱きかかえるように乗せました。

その瞬間、歓声が沸き上がり見えなくなって行きました。

向こうに虚ろなまなざしでじっとメリーゴーランドを観ている子がいます。

「乗らないの？」まーちゃんは声をかけてみました。

でもその子はただ黙ってぼんやりと眺めています。

「一緒に乗ってみる？」まーちゃんは誘ってみました。

「乗りたいけど怖いの...」その子は言いました。

「さっきも乗ろうとしたけど誰も手助けしてくれなかったし、誰かに突き飛ばされてしまったの...」悲しそうにそう言いました。

「一緒なら今度は上手に乗れるかもしれないよ。」

そう言うともーちゃんはその子の手を取り一緒に飛び乗ろうとしました。

それを見つけた誰かが手を差し伸べました。

両手でその手を掴んだ瞬間、その子の手を離してしまいました。

「あっ！」

その子は乗り損なってしまい、転がって落ちてしまいました。

まーちゃんは慌てて戻ろうとしましたが、乗せてくれた人たちにしっかりと支えられています。

「大丈夫、あの子は本当に心から“乗りたい！”と思った時に一人でも乗りに来るよ。今はまだその時じゃなかったただだから...」

支えてくれた人たちが優しい笑顔でそう言いました。

皆、嬉しそうです。

「よく来たね。歓迎するよ！今日から君に新しい名前を授けよう。さあ、一緒に人生を楽しもう！」

新しい名前をもらい、まーちゃんの新しい人生がはじまりました。